

第2回青森競輪あり方検討会 ― 会議概要

日時：平成23年7月27日（水） 13:00～16:30

場所：青森競輪場 「1階・うとう君ホール」

出席者

大川委員、木村委員、工藤委員、佐藤委員、出町委員、藤田委員、
福士委員、田村委員 [以上8名、欠席委員なし]

(五十音順、敬称略)

次第

1 現地視察

(1) 安方前売サービスセンター (13:15～13:30)

(2) 青森競輪場 (14:00～15:00)

2 検討会 (15:00～16:30)

(1) 青森競輪あり方検討会の運営について

(2) フリートーキング

会議概要

1. 検討会

(1) 青森競輪あり方検討会の運営について

検討会の運営にあたり、委員長が下記事項について会議に諮り、申し合わせた。

○ 会議全般を「公開」とする

(2) フリートーキング

施設見学後、各委員から施設の意見等を述べていただき、その後の質疑応答は以下のとおりである。

<意見等>

○委員

安方前売サービスセンターは、施設が脆弱で、駐車場も狭いと思った。また、人が来るわりには、利便さや快適さという部分が足りないように感じた。来場されたお客さんが楽しむ場所とすれば、それなりのスペースが必要と感じた。

○委員

安方前売センターは、車で行って車券を買ったらすぐ帰らないといけない。

もっと施設内で大きなモニターを見ながらファン同士で会話をして予想するなど、お茶を飲んでゆっくりと過ごせて楽しめる施設にするべきだ。

○委員

以前、本場へFⅡレース（A級）を見に来たときは、お客さんが少なかったが、今日は本場でグレードの高いFⅠレース（S級）を開催しているため、たくさんの方が来ていることに驚いた。

集客を高めるため、グレードの高いレースを招致したり、ファンに人気があり、強い選手に来てもらうため、JKAへ選手斡旋のために働きかけたりして努力していることがわかった。

○委員

子供広場には、おもしろ自転車や大型滑り台などの遊具があるので、子供向けイベントのPRをもっと積極的に行って、競輪場に来てもらえるようにする必要がある。

○委員

本場の施設を見ると、使われていない施設があったり、建物自体の老朽化が進んでいて、修繕が必要なところも出てきている。

○委員

本場の施設は、大きくて立派な施設だと感じた。ただ、集客が難しくなってきたこともあり、閉鎖しているフロアもあった。施設を維持するだけでもかなり経費はかかっていると思った。

○委員

以前のような集客に戻すことは、今後、考えにくいと思う。この大きな施設をこのままの状態運営していくのは難しくなっていると感じた。

○委員

電話やインターネットなどを利用して車券が購入できるようになり便利になった。また、来年から女子の競輪も始まり、競輪業界でもいろいろな事を検討、実施してきているので、青森競輪も全国の良い部分を利用すべきである。

○委員

収益の減少から、平成19年度に青森競輪が一定の収益を確保するために行った包括委託によって、赤字となる危機を回避してきたことがわかった。ただし、平成

26年度以降も同じ委託方法で良いのか懸念する。

○委員

競輪を止める場合、競輪場を廃墟にできないため、何かに転用することはできないか。また、これだけの施設だと解体作業の費用が莫大にかかるので、設備投資より費用が上回ることも考えられるのではないか。

○委員

ただのギャンブル施設としてではなく、娯楽・レクレーション施設として方向性を変えていくべきである。

○委員

以前は、全国に50カ所くらいあった競輪場が、現在は45カ所に減っている。北日本では、北海道の「函館競輪場」、東北には「青森競輪場」と「福島のいわき平競輪場」、少し離れて「新潟県の弥彦競輪場」にしかなく、地方には絶対競輪場は必要である。

<質疑応答>

○委員

安方前売サービスセンターは、今後、広い場所に移る予定はないのか。

○事務局

事務局としては、青森競輪を存続するとすれば安方前売サービスセンターは大きな課題と考えている。この検討会の結論を持ってその方向に進むことができるのではないかと考えている。

○委員

安方前売サービスセンターは、なぜ、当日の払戻ができないのか。

○事務局

前売センターは、お客様が停滞しないように当日払いができないことになっている。前売センターは全国どこでも同じく、経済産業省の許可の中で同様に決められている。

○委員

安方前売サービスセンターで、今後、払戻しができるようにするためには、どうすればよいか。

○事務局

機能を変更するためには、申請し許可を得なければならない。

○委員

従業員は311人いるとあるが、レースがない冬の期間はどのようにしているのか。

○事務局

レースがない冬の期間も、ローテーションで出勤している。冬期間は他の施行者が主催する競輪の場外車券を発売しているので、車券発売、警備、清掃、施設管理などの業務を行っている。

○委員

職員は、冬期間どのような業務をしているのか。

○事務局

競輪場事務所は、一年間を通して開いている。冬期間、職員は場外開催の売上精算業務や来年度に向けた開催日程の作成、他の施行者との調整など競輪を開催するための業務を行っている。

○委員

近くにある森の広場と競輪場は遊歩道で行き来できるが、森の広場から子供は何人くらい遊びにくるのか。

○事務局

日曜日は、競輪場に子供が50人程来場しているが、森の広場からの来場はほとんどない。

○委員

冬期間の売上状況はどういう状況か。場外車券を発売すると売上げになるということか。

○事務局

レースの種類によって違う。本場と安方前売サービスセンター、藤崎場外を合わせると、1日あたり、約2,000万円前後である。

○委員

本場の売り上げはいくらになるか。

